

日本の構造家

(50音順)

- **新谷 真人(あらや まさと)**

新谷真人(1943年-)は、構造設計者。伊東豊雄、隈研吾、原広司など、著名な建築家の構造設計を数多く担当している。

構造設計の主要作品として、MINT HOUSE(92年)、銀座資生堂ビル(2001年)横浜赤レンガ倉庫などがある。

- **今川 憲英(いまがわ のりひで)**

1947年広島県生まれ。1969年日本大学理工学部建築学科を卒業。渡辺邦夫擁する構造設計集団(S.D.G)を経て1978年に構造設計事務所T.I.S. & PARTNERSを設立。

構造設計の主要作品として、MINT HOUSE(92年)、銀座資生堂ビル(2001年)横浜赤レンガ倉庫などがある。

- **梅沢 良三(うめざわ りょうぞう)**

1944年群馬県に生まれ。1968年日本大学理工学部建築学科卒業後、木村俊彦構造設計事務所入社。1977年丹下健三都市建築設計研究所入社。1984年(株)梅沢建築構造研究所設立。

構造設計の主要作品として、藤沢市湘南台文化センター(92年)、すみだ生涯学習センター(95年)和洋女子大学佐倉セミナーハウス(98年)鳥取県立フラワーパーク(2000年) Sony Music Entertainment 白金台オフィス(2000年)、渋谷道玄坂歩道橋(2001年)、彩の国熊谷ドーム(2005年)などがある。

- **金箱 温春(かねばこ よしはる)**

1953年、長野県生まれ。1977年、東京工業大学大学院修了後、横山建築構造設計事務所に入社。1992年、金箱構造設計事務所設立。

構造設計の主要作品として、福島潟自然生態園(98年)、兵庫県立美術館(2004年)、御所野縄文博物館(2004年)、釧路市こども遊学館(2005年)、表参道ヒルズ(2006年)、青森県立美術館(2006年)などがある。

- **川口 衛(かわぐち まもる)**

1931年生まれ。法政大学名誉教授。川口衛構造設計事務所主宰。工学博士。

福井大学工学部建築学科を経て、東京大学大学院数物系研究科修了。坪井善勝の下で代々木屋内体育館構造設計に参画。

構造設計では建築構造と造形のあり方や、新しい構造技術の開発を主眼として構造設計活動を展開している。教育者、研究者としても建築構造設計を専門として、初期のシェル構造やテンション構造、またスペースフレーム構造体から免震設計まで、幅広く研究分野を開拓し実践してきた。主な作品としては、イナコスの橋など。

- **木村 俊彦(きむら としひこ)**

1926年香川県生まれ。50年東京大学建築学科卒業、前川國男建築設計事務所入所。その後、横山構造設計事務所を経て、64年独立、木村俊彦構造設計事務所を設立。2009年5月27日死去、享年82歳。

構造設計活動の業績で76年度日本建築学会賞受賞。構造設計の主要作品として、京都国立国際会館(65年)、千葉県文化会館(67年)、藤沢市立秋葉台文化体育館(84年)、東工大百年記念館(87年)、梅田スカイビル(93年)、京都駅ビル(97年)、公立はこだて未来大学(2000年)などがある。

- **佐々木 睦朗(ささき むつろう)**

1946年愛知県に生まれ。68年名古屋大学工学部建築学科卒業、70年名古屋大学大学院工学研究科修士課程修了後に木村俊彦構造設計事務所勤務。1980年に佐々木睦朗構造計画研究所設立。2004年法政大学工学部建築学科教授に。

合理的で美しい空間構造物を作る事から“デザインする構造家”と言われる。磯崎新、伊東豊雄、SANAAらと組むことが多く、コンペでの勝率が非常に高いことでも有名。

構造設計の主要作品として、国際情報科学芸術アカデミー マルチメディア工房(96年)、せんだいメディアアーク(2000年)、札幌ドーム(2001年)、ルイ・ヴィトン表参道ビル(2002年)、金沢21世紀美術館(2004年)がある。

- **齋藤 公男(さいとう まさお)**

日本大学在学時に故・坪井善勝氏の元で学び、バックミンスター・フラーに魅了される。卒業後は、日本大学理工学部建築学科で教鞭をとりながら、空間構造デザイナーとして数多くの作品を生み出してきた構造設計者の一人である。特に、張弦梁構造の設計の第一人者として知られる。

- **坪井 善勝(つばい よしかつ)**

日本の構造家。建築構造学者、構造デザイナー。東京都生まれ。東京大学名誉教授。

1929年東京帝国大学工学部建築学科入学。1932年東京帝国大学大学院入学。和歌山県営繕技師、九州帝国大学助教授を経て、1942年東京帝国大学第二工学部建築学科教授。1949年から1968年まで、東京大学生産技術研究所第5部教授。田治見宏、青木繁、若林實、川口衛らを育てる。

シェル構造研究の第一人者であり、構造デザイナーとしても優れた作品を残す。国立屋内総合競技場、東京カテドラル聖マリア大聖堂、愛媛県民館、万博お祭り広場などの丹下健三の作品は坪井の構造設計に負うところが大きい。

- **松井 源吾(まつい げんご)**

日本の構造家。早稲田大学建築学科で長く教鞭をとりながら、著名な建築家と数多くの建築を生み出してきた構造設計者の一人である。学外では、構造設計事務所 ORS 事務所を創設し、設計活動を展開した。また、現場打ち中空ボイドスラブ工法など、研究開発した工法も多数。早稲田大学退官後は、構造設計の賞として松井源吾賞を創設。構造エンジニア、構造設計者らの育成と地位の向上にも力を注いでいた。

代表作に、菊竹清訓の一連の建築作品における構造設計、早稲田大学理工学部 51 号館、世田谷美術館構造設計、坂茂の紙の家（1995 年）の構造設計など多数。工学博士。新潟県佐渡出身。

- **渡辺 邦夫(わたなべ くにお)**

1939年東京都生まれ。1963年日本大学理工学部建築学科卒業後、横山建築設計事務所を経て、1964年からは木村俊彦構造設計事務所に移籍。1969年から、構造設計集団（SDG）を主宰する。構造デザイナーの第一人者。

構造設計の主要作品として、武蔵学園（77年）、日本コンベンションセンター（89年、第一回 JSCA 賞受賞）、海の博物館（92年）、東京国際フォーラム（99年）、幕張メッセ・北ホール（97年）、富山県総合福祉会館（99年）、札幌メディアパーク（2000年）などがある。建築家、1931ー 大分県生まれ。主な作品：『群馬県立近代美術館』、『つくばセンタービル』、『なら 100 年会館』など。著書：『建築における「日本的なもの」』新潮社、2003年、ISBN410458701X など。